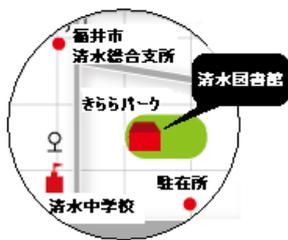


福井市図書館だより

福井市図書館館報 No. 22 (2010. 12)

「福井市立図書館」、「福井市立みどり図書館」
「福井市立桜木図書館」、「福井市立美山図書館」、
「福井市立清水図書館」を総称して福井市図書館と呼んでいます。



読書の楽しみをひろげましょう

福井市図書館だよりでは、これまでに蔵書の中から司書がおすすめの本を選び、38冊の本を紹介してきました。国民読書年の今回は、一般書を紹介する「本の散歩道」では25人の作家が登場する対談集を、また、児童書を紹介する「こどもの本のひろば」では1954年に日本で出版されて以来読み継がれてきた絵本を取り上げました。

本の散歩道

児玉清の「あの作家に会いたい！」

人と作品をめぐる25の対話 児玉 清 || 著 PHP研究所



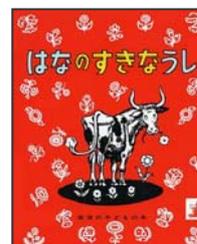
本を読むうちに、その作品を書いた作家がどんな人物か、気になったことはありませんか？本書は今をときめく人気作家25人と、読書家で知られる俳優の児玉清との「人と作品」をめぐる対談集です。作品と作家は別物だという人もいますが、自分の気になる作家が子ども時代にどんな本を読み、どんな環境で育ったかを知ることはその作品のもう一つ深いところを理解するきっかけになったりもします。

とはいえ堅苦しい作家論などではありません。たとえば少し前に話題になった「博士の愛した数式」の著者、小川洋子の最初の愛読書は『家庭の医学』だそうです。ならば、医療の道に進みそうですが、なんと彼女は病気そのものよりも「病気を患った人はどういう運命を辿るか」ということに興味があったそうです。並外れた発想力はもうすでにこの頃から芽生えていたのですね。また、若者にも人気の作家、有川浩は「物知らずであることが自分の武器だ」と言います。なぜなら、知らないことを見聞きしたときに、ものすごく面白がるからと。それで生まれたのが『空の中』や『海の底』。『空の中』は「成層圏はまだ未開発の空間だ」という話を小耳にはさんで、ならば「そこに何かがいなくてもわからないんじゃない？」と考えたのだそうです。どんな物語を思いついたのかは読んでのお楽しみです。〈M〉 (請求記号：910.2/コ)

こどもの本の広場

はなのすきなうし

マンロー・リーフ || おはなし ロバート・ローソン || え
光吉 夏弥 || やく 岩波書店



むかし、スペインのある牧場に『ふえるじなんど』という名前の牛がいました。『ふえるじなんど』は、お気に入りの木のそばで、花のおいをかいで過ごすのが大好きでした。何年かたち、とても大きくて強い牛に成長した『ふえるじなんど』でしたが、あいかわらず花のおいが好きな、おとなしい牛でした。

ある時、『ふえるじなんど』は、くまばちにお尻を思い切り刺されてしまいます。「いたい！」『ふえるじなんど』は痛さのあまり大暴れ。激しく頭を振り地面を蹴ります。その様子を見た牛飼いの男たちは、この乱暴な牛こそマドリッドの闘牛にぴったりだと、『ふえるじなんど』を闘牛場へ連れて行きます。猛牛と勘違いされて闘牛場へ連れて行かれた『ふえるじなんど』は、どうなってしまうのでしょうか。意外な結末にほっと笑いがもれてしまいます。白黒の絵が牛の姿やスペインの闘牛場を鮮やかに描き出しています。読んであげるなら4歳くらいから楽しめるでしょう。〈Y〉 (請求記号：E/ロ)

国民読書年特別企画として、利用者の皆さんから心に残った本やおすすめの本を「私の一冊」として、所定の用紙にコメントを添えて紹介していただきました。館内に展示しました中から一部を紹介いたします。(紙面の都合上コメントの掲載については一部抜粋したものもあります。)



大遺言書
森繁 久彌 || 著
新潮社
778/モ

雑誌連載をまとめた聞き書き1冊。何年経ってももう一度読み返したくなる本です。「いまさらながら一大遺言書」「さらば大遺言書」と続きます。



とんび
重松 清 || 著
角川書店
F/シ

号泣！してしまいました。人と人との関わりがこんなに暖かくて切なくて…。



傀儡 (くぐつ)
坂東 眞砂子 || 著
講談社
F/ハ

図書館にあるという気安さから読んでみようと思いましたが、鎌倉時代の荒涼たる風景の中で、「傀儡 (くぐつ)」師の根無し草を歴史あり、フィクションありで霧のように表現されていてとても面白かったです。(抜粋)



日本の方言地図
徳川 宗賢 || 編
中央公論社
818/ニ

国語学のレポート作成のときに借りて読んだ本です。各地での言い回し(方言)が日本地図上に記号文字を使ってプリントされており、当時、寮に集まった友人たちと本当にそんな方言があるのか確認しあったりして楽しく過ごしたことがありました。課題として読まれた本ですが、その後、フィールドワークを通じて文章を書くのが好きになったきっかけの1冊です。(抜粋)



園芸家12ヶ月
ガル・チャップ || 著
中央公論社
620/チ

30年近く手近な本棚に収まり、季節によったり気が向いたりする毎に読んで楽しんでいます。園芸知識満載の本ですが、それ以上に人間観察が面白く1冊読んだら1冊の文章と絶妙のさし絵が楽しませてくれます。知らない植物も多く登場しますが、それも楽しく、園芸以外の様々なことも考えさせられる時に一人で笑ってしまうこともあります。



「話して考える」と「書いて考える」
大江 健三郎 || 著
集英社
914.6/オ

この本は大江健三郎の講演をまとめたもので、中野重治についての講演も入っています。他にも、著者の子どもの頃や家族について語った講演や、本を読むことについて、看護と文学の共通点、憲法についての講演など、興味深いものばかりでした。著者の表現者としての生き方やこだわりあふれる一冊です。



ぼくと1ルピーの神様
ガル・チャップ || 著
ラングムール講談社
933/ス

「不正はしていない、銭があっただけだ。」とあるクイズ大会に出て見事全問正解で最高賞金を手に入れた孤児の少年、ラム・ムノット・トマ。金も教養も無いただのウェイトレスとして働くインド人の少年はなぜ全ての質問に答えることができたのか？少し謎にまじりの、インドの心温まるお話です。映画化もされましたが、ぜひ原作を読んでみてください。(抜粋)



精霊の守り人
上橋 菜穂子 || 著
偕成社
91/ウ

圧倒的カールの文章に圧倒されつつ、貪欲なほどに読み耽ったときのことが忘れられません。細やかな世界観には大人も子供も夢中になるのは間違いありません。



ぐりとぐら
やまわき ゆりこ || 著
なかがわ りえこ || 監
福音館書店
E/ヤ

孫たちに絵本を読みますが、まず選びたい本です。とにかく読み手が楽しくうきうきしてきますし、聞くほうも自分たちが主人公になったように目が輝いてきます。何度も読むうちに文中の歌も自然と曲になって、終わった後には満足し、幸福感に浸れます。

「私の一冊」にたくさんのご応募ありがとうございました。
みなさんのおすすめの参考にしてみてね。
貸出中の場合はお気軽にご予約ください♪



福井市立図書館	福井市文京2丁目7番7号	福井市立美山図書館	福井市美山町第2号12番地
福井市立みどり図書館	福井市若杉3丁目301番地	福井市立清水図書館	福井市風巻町第21号17番地
福井市立桜木図書館	福井市手寄1丁目4番1号	アオッサ4F	